

IR報告～コミュニケーション能力の変化～

学生調査(毎年11～12月実施)から、コミュニケーション能力の変化について取り上げます。

1、3年生を対象とした学生調査では、入学時点と比べた学生の成長の実感を問う設問があります。「コミュニケーション能力」についての、2015年度以降の大学1年生と短大1年生の結果は、それぞれ図1と図2のとおりです。

「大きく増えた」や「増えた」といった肯定的回答に着目すると、大学1年生は52～54%程度、短大1年生は60～64%程度で、推移していることがわかります。板橋校舎では、今年度前期より1年生必修科目の「スタートアップ自主自律」が開講しました。学科を越えたクラス編成で、アクティブラーニング型の授業を多くの学生が経験し、今年度の学生調査の結果に変化をもたらすかどうか注目です。

学生調査実施

令和元年度の学生調査を、例年通り実施しております。回収し集計した結果は、IR情報に掲載し、教育課程編成の検証など教育改善等に活用されます。調査へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

〈実施期間〉

令和元年10月31日(木)～11月16日(土)

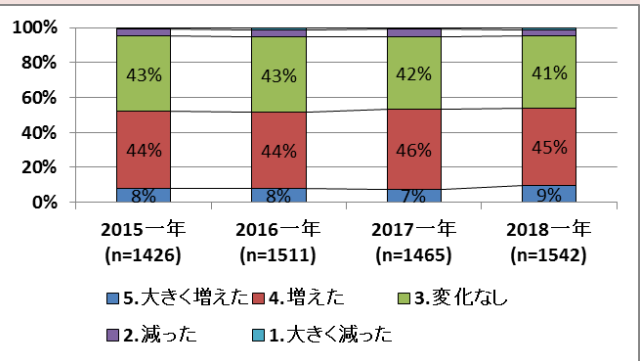


図1: 入学時点とくらべたコミュニケーション能力の変化(大学1年生)

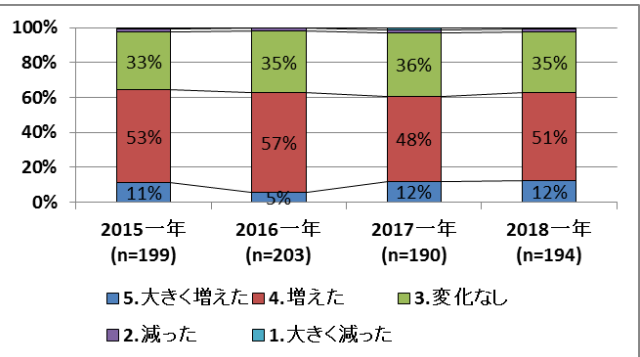


図2: 入学時点とくらべたコミュニケーション能力の変化(短大1年生)

令和元年度リサーチウィークスについて(お知らせ)

〈開催期間〉 2月14日(金)～2月28日(金)

〈ポスターセッション〉 2月14日(金)～2月28日(金)

〈イベント〉

・オープニングレクチャー 2月17日(月)13:00～

・FDフォーラム 2月19日(水)13:00～15:00

・教員研究成果発表会 2月21日(金)終日(予定) ※教育支援センター主催

・部署別SD取組成果報告会 2月18日(火)～2月20日(木)

・学長裁量費成果発表会 2月25日(火)9:30～12:30

案内冊子はガールーン
に掲載します
(2月上旬予定)

[ポスターセッション]および[教育・研究活動成果に関するイベント]の参加申込み開始は11月中旬にメールで案内予定です。

<CRED貸出書籍のご紹介>

『対話型授業の理論と実践 深い思考を生起させる12の要件』
多田孝志(著) 教育出版

アクティブ・ラーニング、主体的・対話的で深い学びが求められている。そこで多くの授業では、学生どうしのグループ・ディスカッションが用いられている。議論を通じて、学生たちに他者を知り、自らを知り、独力では出ないアイデアを生み出してもらいたいからである。しかし、実際には教員の準備不足や方法の不備から、学生どうしの単なる「おしゃべりの時間」になってしまうことが少なくない。そのような時にぜひ手に取って欲しいのが本書である。早速私も「深い思考を生起させる12の要件」で、自分の授業を見直してみるつもりである。(児童学科・平山祐一郎先生)



教育改革推進(学長裁量)経費予算による研究・開発シリーズ研修会 第1回 開催されました！

これまでに教育改革推進事業で蓄積された成果を、学内で展開するための研修会が、昨年度よりFDの一環で開催されています。

今年度第1回は、9月5日に板橋校舎図書館Lプラザにて、栄養科の重村泰毅先生をお招きし、「manaba導入による学習効果について」と題し、お話しいただきました。manaba利用中あるいはこれからmanaba導入を検討している先生方の参加が多く、質疑応答に入ると積極的な意見交換が行われました。当日の研修会の様子は、本学manabaの「FD研修」のコースで公開中です。

今年度第2回以降の研修会については、今後予定が決まり次第、教授会やメール等でご案内いたします。



学生CREDが 学生FDサミット2019夏 with学生FD会議に参加しました。

学生CRED5名が、8月下旬に北翔大学(北海道江別市)にて開催された学生FDサミットに参加しました。

「大学はつまらない?—今、私たち学生にできることは」をテーマに学生・教職員がグループに分かれディスカッションを行いました。



参加した学生からは、「学生CRED活動において目指すべきものが以前より明確になり、モチベーションの向上にもつながったため、参加して良かった」

「普段接することの無い、全国から集まった多くの大学の学生や先生方と話すことができ、大変有意義な時間であった」などの感想が寄せられ、有意義な時間を過ごしました。